

# 東京勤医会の野田南部訪問看護S Tで9条の会が結成

## 憲法問題、私はこう考える(No. 2)

東京民医労書記局発行

### 自分にとって、憲法9条は絶対に譲ることのできないもの

#### O・Kさん(ほくと医療労組中央副執行委員長)

僕にとって憲法といえば、やはり憲法9条というイメージを1番強く持っています。平和こそが自分たちの生活を守っている根源だと思っているからです。今憲法9条を改悪する動きが強まっています。イラクへの自衛隊派兵、「つくる会」歴史教科書、自・公・民による改憲論など、また日本が戦争へと向かっていくような気さえしてしまいます。周りの友達と話をしても、中々関心をもってもらえない事も多々あります。

とはいえ私も最初から平和や憲法について考えていた訳ではありませんでした。民医連へ入職する前の僕は社会問題といったものにはこれ以上ないくらいに疎い人間でした。当時は居酒屋で深夜までアルバイトをして、休日は遊び回るといって生活を続けていました。友人と社会問題について話し合うということもなかったし、楽しく生活できているのだからそれで良いと思っていました。

その後、祖父の入院体験から医療現場で働きたいと思うようになり、2000年から当時の荒川生協病院(現荒川生協診療所)で働くことになりました。医療生協の組織部担当者として荒川地域を自転車で廻る中で、それまで接点のなかった高齢者の生活実態を知り、弱者に厳しい政治社会のあり方に次第に疑問を感じるようになっていきました。

そんな中、私は原水禁広島大会に参加することになりました。そこでの体験は一生忘れられないと思います。毎日ショックの連続でした。戦争や原爆投下の話は授業でも習っていたし知識としては知っているつもりでした。しかし、そこで見聞きしたことは、教科書からは到底伝わってこない生々しさがありました。中でも被爆者の方が泣きながら自らの体験を話してくれたことは、今でも鮮明に記憶に残っています。原爆投下直後の地獄のような広島の様子、ケロイドのおかげで仲間や恋人からも逃げられ悲しみに暮れたこと、そして自分の子どもにまで被爆の十字架を背負わせる事になった苦しみ等、たくさんのお話を僕らにしてくれました。戦争映画では「愛する者のために戦う」とか戦争を美化するような表現をよく見たりしましたが、実際の戦争ではそんな事はなく、その方の話からは、被爆者を始めとした戦争被害者がどんなにもがき苦しんで生きてきたかが突き刺さるように強く伝わってきました。私が戦争の本当の姿を知り、今のこの平和な時代、自分が面白おかしく暮らしてきた生活がどんな人たちの犠牲の上に成り立っているのかを知った瞬間でした。それまでこういう問題に目を向けられなかった自分を本当に恥ずかしく思い、平和問題についてもっとしっかり考えようと思いました。僕の中でターニングポイントとなった非常に貴重な体験でした。

また私が憲法9条にこだわるもうひとつの理由は、家族の存在です。自分の家族に将来あの被爆者の方のような体験は絶対にさせたくはありません。昨年8月に子どもが生まれ、更にその思いが強くなりました。

そんな訳で僕にとって憲法9条は平和で幸せな暮らしそのものであり、絶対に譲れないものです。自分に来ることは限られていますが、自分の子どもや友人には平和の大切さをしっかりと伝えていきたいと思います。

~~~~~

### みんなの声で、平和の地をとりもどそう!

#### I・Rさん(東京勤医会労組)

米軍基地は日本に必要でしょうか?日本全国に134ヶ所あります。横田基地は住宅地の中にあります。沖縄では米軍基地があるために、様々な問題が起きています。東京においても、ヘリコプターの墜落・不時着、訓練による物資誤投下などの事故が相次いでいます。このまま米軍基地があり続けていいのでしょうか?

#### 【思いやり予算】

2003年度だけで6400億の予算、米兵一人あたり1610万円、米軍基地ではコーラが22円、ビールが61円で、税金は免除される(でも、あなたは買えません)。ビールにかかっている税金は、年額6500億円。私たちが払った税金、自分のために使いたいよね。基地がなくなったら?

A:「保育園が欲しいわ!」

N:「子ども病院があれば安心ね」

F:「コンサートホール」

H:「遊園地」

S:「グラウンドの大きな学校がいいな」

R:「それだけあるなら、医療費負担、1割増やさなくていいのに」

Y:「高齢者負担もね、増やしたって、その分増える税収は2000億よ」

HU:「日本が負担する義務はないのに、余計な『思いやり』だよ」

A:「ところで、さっきから言っている『思いやり予算』って何？」

思いやり予算とは・・・本来負担する必要のない日米軍の経費を、日本が肩代わりしている。

『思いやり予算』はアメリカの言いなりにふくれあがり、累計額は4兆円。米軍の軍事作戦に関わる施設建設の経費だけでなく、米兵の家族住宅や野球場、学校(20人以下のクラス)、光熱費電気代だけで168億円)と至れる尽くせりです。

### 〔豪華な米軍の暮らし〕

標準的な米兵家族の住宅は、日本の公営住宅の3倍の大きさ(建設費は日本持ち)。米兵の体力向上のためにトレーニングジムや体育館を建設(これも日本持ち)。物価も日本国内より安く、自動車税や住民税も安い(米兵の特権)のです。

1960年、昭島市の堀向地区は市内で一番にぎわっていましたが、ベトナム戦争の激化で大型輸送機や戦闘機の騒音がひどく、集団移転によって街はゴーストタウンとなってしまいました。街がなくなったのです。横田基地は戦略拠点として、強化されようとしています。米軍と自衛隊が一体化し、米軍の指揮のもと、軍事作戦に出ることになります。これは憲法が禁じている武力行使につながるようになります。

A: 「それって戦争に参加することだよ」

R: 「そうだよ」

N: 「えー嫌だよー」

F: 「私も反対」

H: 「みんな嫌だと思うけど」

S: 「軍民共用化も提案されているみたいだけど？」

R: 「横田基地の民間活用は、多摩地域の経済振興や交通の利便性の向上などを前面に打ち出し、PRをすすめているが、問題なのは他の民間空港とは違い、住宅地が密接していること、現在も続く周辺地域の騒音被害がいつそう激しくなることや、訓練事故の危険性の増加、横田基地の永続化などです」

Y: 「今でも騒音に悩まされているのに、病気になってしまいそう」

HU: 「また、お金がかかる。今でも、病に苦しんでいても病院に行かないで(行けないで)、重症になってから、あるいは手遅れの人がいるのに」

A: 「一人暮らしの人の訃報はテレビでも後を絶たない」

N: 「今まで頑張って働いてきたのに、悲しいね」

R: 「そうだよ。国が老後のことも保障するべきなのにね」

F: 「若くて、お金もあれば、スイスなど住みやすい所に行けるけど」

H: 「住みにくい世の中だよ、本当に」

S: 「なんで国民の気持ちがわからない人が政治家になっているの？」

Y: 「選挙でみんなが選んでいるからよ」

R: 「選ぶ人をまちがえているのか？みんなが騙されているのか？」

HU: 「いつも圧倒的に自民の勝利に終わる」

A: 「改革といっても、国民を苦しめるだけ」

R: 「みんなの気持ちがわからない」

N: 「戦争を体験した人たちは皆高齢化して歩けず、または病に倒れて、入院していても認知症で投票できない人が全国にどの位いるのか、わからない。その人達の肩代わりは誰もできないから、悔しいね」

R: 「だから、そんな人たちのためにも、今、『9条の会』なのよ」

F: 「私たち1人1人が多くの人に『戦争反対』『憲法改悪反対』の声を上げていけば、必ず政治は変えられる」

H: 「1人の人が10人、10人の人が100人と少しずつ輪を広げていけば、大きな輪ができる」

R: 「この間、特別養護老人ホームに『ぞうれっしゃ』を歌いに行ってきました。戦争のことを思い出して泣く人、感無量で言葉の出ない人、『あー、あー』と感動を声で表し、最後に『ありがとう』の言葉が言えた人。戦争で知らなかったことを聞けたと、どの人も喜んでくれました。いろんなコミュニケーションのとり方があり、大変貴重な体験ができ、これからも歌を通じて『平和の大切なこと』を知らせていく任務が課せられていることを再確認できました。これからもいろんな人と出会い、体験して成長していく子どもたちに、基地はいりません」

一同: 「賛成」

この秋、日本では台風17号・18号が、海外では『リタ』が猛威をふるっている。被害ははかりしれないが、そんな時こそ、イラクに行っているのではなく、被害者を救済するべきである。アメリカも戦争ではなく、被害をこれ以上広げないように手を差し伸べるべきである。子どもでもわかることなのに、大人になると頭が固くなるのか、ずる賢くなるのか？命の大切なことをわからなくするための『つくる会教科書』のことも忘れてはいけない。『戦争』を肯定する教科書である。人間を『人を殺す兵器』に変える『麻薬』のようなものなのである。

**女性「9条の会」の「憲法改定を問うシンポ」へのお誘いの手紙を、大原穠子さんからいただきました。「天秤にかけていいの？生存の権利と軍事費」というテーマで、9条と25条が取り上げられるそうです。10月21日(金)18時から津田塾会本館にて、参加費は500円です。**